

学校概要				
創立 41 周年	学校長 志村 誠一郎	副校長 戸田 緑	学期 2 学期制	児童・生徒数 405 人
学級数 一般級: 11 個別支援級: 2		主な関係校: 下田小学校・駒林小学校		

学校教育目標	
○主体的な学びを創り出します。(知) ○豊かな心と健やかな体を育みます。(徳・体) ○よりよい社会を築く力を養います。(公・関)	

学校の特色	東急東横線日吉駅西方の丘陵地帯に開発された住宅地に、日吉台中学校を親校として昭和52年4月1日に開校し、今年度41年目を迎えている。教育に対する家庭や地域の方々の関心は高く、本校の教育活動に理解があり、PTA活動も活発で大変協力的である。学区内には2つの小学校があり、様々な形で小中連携の取組を行っている。
-------	---

学校経営中期取組目標	
○学校教育目標を実現するために、積極的・創造的な教育活動を推進します。 ・基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を高める授業作りを推進し、主体的に課題解決に取り組む生徒の育成を図ります。〈知・体〉 ・他者との様々なふれ合いや体験的な学習を通して規範意識やコミュニケーション能力を育み、健やかで心豊かな生徒の育成を進めます。〈徳・体・公〉 ・地域とのかかわりを通して生き方に学び、自分の生き方を創り出そうとする体験的な学習の充実をすすめます。〈徳・公〉 ・家庭・地域・小中一貫教育推進ブロック等と連携し、情報発信をすすめ、信頼される学校づくりを進めます。〈公・関〉	

小中一貫教育の取組	
日吉台西中	ブロック: 日吉台西中学校・下田小学校・駒林小学校
9年間で育てる子ども像	○自他の思いや子ども同士の関わり合いを大切にし、よりよい社会を主体的に築こうとする子ども。 ○基礎的・基本的知識技能の確実な習得を図り、主体的に学習に取り組む子ども。
自校の具体的取組	【日吉台西中ブロックテーマ】～基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざした授業づくり～ ○文化祭前日小学校6年生を招いて合唱コンクールのリハーサルと文化祭のコース別活動を見学してもらいます。 ○2月に生徒会が小学校6年生を招いて中学校生活についてのガイダンスを実施します。また、土・日を利用し、部活動体験を行います。

重点取組分野	取組目標	具体的取組	自己評価結果	総括
<b>確かな学力</b> 各教科で相互研修をさかんにし、個に応じた指導をとおして、基礎学力の定着を図ります。 「思考力・判断力・表現力を高める授業」の設計を進め、主体的に学習に取り組む力を育てます。	○個に応じた指導を展開し、基礎学力の定着強化を図ります。 ○主体的な学習に取り組む態度を育て、課題の提出率100%を目指します。 ○行事などを通して、自分をより豊かに表現する力を育てます。	○授業の中で手の振り返りをきちんと行い、学力の定着を図った。 ○プレゼンやスピーチなど表現活動を多く取り入れた授業を行うことができた。 ○教科相談の期間を設けたり、随時生徒や保護者の相談に対応し、提出物の完成提出支援や学力向上のためのアドバイスを行った。	A	
<b>豊かな心</b> 生徒一人ひとりの良さを認め伸ばし、自分もまわりの人もより大切にできるような豊かな心を育てます。 生徒一人ひとりが全力で取り組み、壁を乗り越えて達成感を味わい、自信を持つことができるように指導支援します。	○各学年の係を中心に、生徒の実態を見つめながら、適切に道徳の時間の指導計画をたて、指導方法を工夫しながら実施する。 ○人権教育の充実のために、職員研修の充実を図り、人権講演会や人権作文に全校で取り組む。	○各学年の担当者が中心となり、適切に道徳の時間の指導計画を立て、生徒の実態に合った指導法を検討し、工夫しながら実践的に取り組んだ。 ○人権教育の充実を目指して、人権に関する情報を進めることができた。人権講演会では保護者と連携して取り組んだ。人権作文を課題とすることで、生徒の人権感覚を磨くことができた。	A	
<b>健やかな体</b> 生徒一人ひとりが個性・創造力を最大限に伸ばすための自己教育力の育成を目指し、しっかりと生徒理解に立って、健康で良識のある行動のできる生徒の育成に努める。	○保健体育科で「適切な運動の経験や健康・安全についての理解を通して、健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、明るく豊かな生活を営む態度を養う」ことを教科目標とする。全単元を通して体力向上を図ることに重点をおき、その中で自己の課題解決力を身につけさせる。 ○体力向上1校1実践運動に積極的に取り組む。	○新体力テストを通して、自己の体力を知り、体力を高める運動の効果的な行方を考え、授業、部活動、生活の中で実践することができた。 ○学校保健委員会では、睡眠の大切さについて調べ、発表した。保護者や学校薬剤師、眼科医も参加し助言指導をいただいた。	A	
<b>教育課程・学習指導</b> 中期学校経営方針を明確に意識し、その具現化をめざしたそれぞれの計画を立て、教育課程の編成と生徒が自ら意欲的に学ぶ態度を養い、生徒の個性・創造性の伸長を図る学習指導を進める。	○生徒が自ら意欲的に学ぶ態度を養うとともに、生徒の個性・創造性の伸長を図るため学習指導の充実を図る。 ○計画的に授業研究を行い、学ぶ楽しさが実感できる「分かる授業」を実践するとともに、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを推進し、主体的に課題解決に取り組む生徒の育成を図ります。	○総合や道徳において、情報をを先に取り入れ、道徳の評価などについては先行実施することができた。 ○授業研の機会を増やし、お互いに研修を深めていきたい。	B	
<b>児童・生徒指導</b> 基本的な生活習慣の定着と生徒一人ひとりが自分のよさを発揮することができるよう積極的に支援をする。	○互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成を図り、ぬくもりのある生徒指導の実践に努めます。 ○教職員間のコミュニケーションを大切にし、情報を共有しながらチームとして組織的に取り組みます。	○毎朝の生徒指導の情報交換で他学年の情報も共有することができた。 ○全職員で必要な情報を共有し指導の統一を図ることができた。	A	
<b>いじめへの対応</b> いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、適切な処置に取り組み、いじめのない学校作りを目指します。	○定期的なアンケートを活用し、早期発見や早期対応に努めます。 ○年3回の定期的な教育相談や状況に応じた相談活動の充実を図ります。 ○スクールカウンセラーの効果的な活用を図ります。	○定期的なアンケートや教育相談を行い、いじめの未然防止に役立てることができた。 ○SNSによるいじめの防止として、携帯の安全教室を開催した。	A	
<b>地域連携</b> 保護者・地域及び関係機関との連携を積極的に進め、地域に根ざした学校づくりに努める。	○説明会や懇談会を活用し学校経営方針や年間行事予定、教育活動などの周知を図り、学校と保護者・地域の方々の相互理解に努めます。 ○毎月の学校便りやHPを活用し、情報を積極的に発信します。 ○職員が進んで地域に出て行き、地域の思いや要望を把握し、積極的に取組を進めます。	○地域防災訓練へのボランティア参加が定着し、本年度も積極的に活動することができた。 ○学校行事や懇談会などでアンケートを実施し、学校・保護者・地域との相互理解に努めた。 ○学校便りや学年通信、好調新聞などで学校の様子を紹介した。	B	
<b>特別支援教育</b> 生徒一人ひとりの課題の把握を確実にし、保護者や生徒本人の悩みや願いを共有し、合理的配慮に基づいた取組を進める。	○特別支援コーディネーターを柱とした組織的な取組で、保護者との連携のもと、支援・指導計画を作成し推進する。 ○外部講師を招いた研修や、特別支援学校等との連携で、職員の特別支援教育に対する理解を深め、的確な指導・支援ができるようになります。	○一人ひとりの状況について職員間で連絡報告をし、理解を深めて個別対応の支援をすることができた。	B	
<b>人材育成・組織運営</b> 学年集団をメンターチームととらえ、OJTを意識した活動で、教員チーム全体の資質の向上をめざします。 指導部の活動を中心に仕事の合理化とスキルの伝達を充実させます。	○各教職員が、それぞれのキャリアステージスタンダードをしっかりとイメージし、目標設定を行い、目標の実現を目指して研修・実践を行います。 ○学年集団の活動を校内OJTの場とし、主幹教諭クラスの指導アドバイスを中心に、経験6年以上の中堅職員が中心となって学校経営や新任教諭若手教職員の育成に取り組めます。 ○指導部を中心に業務内容や進め方を見直し、仕事の合理化と若手への業務内容の伝達を確実にします。	○各学年集団を校内OJTの場として、新任や経験年数の浅い職員の育成に取り組んだ。 ○2年・3年目の職員には、研究授業の機会を設け、外部より指導者を呼んだり、リーダー研修対象の職員の指導の下に研究授業等を実施し、授業スキルの幅を広げることができた。	A	

ブロック内相互評価後の気づき	○学習指導面では、三校合同研究授業で、中学の道徳を公開し、授業後の小中合同協議で、指導方法や資料などについて、様々な意見交換し合い、学習方法等についてあらためて見つめ直すことができた。 ○地域連携の面では、地域防災訓練に中学生が参加し、地域での中学生の役割をあらためて感じ取ることができた。
----------------	--

学校関係者評価	○日吉台西中学校の生徒は身につけたことはしっかりと実践しており、落ち着いた学校生活を実現している。 ○反面、言われないとできないという面もあり、挨拶も学校内では良くなるが、学校外ではできていない部分もある。 ○今後は自主的な判断ができる力を育成することに重点を置くべきだと考える。
---------	--

学校経営中期取組目標振り返り	○本中期学校経営方針の二年目に当たる本年度は、昨年の取組と総括を踏まえて、策定し取り組んできた。また、委員会からの指示で、「児童・生徒指導」から「いじめ」を別枠にすることで、重点的な取組として明確にした。 ○全体的には、今年度もA評価が多く、満足できる結果と捉えている。しかし、細かい部分では、まだまだ課題が残っている部分もあり、次年度の取組に生かしていきたい。 ○「保護者・地域住民との連携」の中で、地域連携については、地域清掃の復活や防災訓練でのボランティア参加など、一歩ずつ前進し、中学生の役割を定着させることができています。
----------------	--